

人とロボットの 共生社会をデザインし プロトタイプする



HuRoC EXPO 2026

7/17 金

HuRoC EXPO 2026

【開催】7月17日(金) 10時~17時
 【会場】大田区産業プラザ PiO 大展示ホール (京急蒲田駅徒歩2分)
 【出展者】HuRoC パートナー企業/大学・研究機関/ロボット開発チーム/大田区ものづくり企業
 【参加費】無料 ※事前登録制
 【主催】HuRoC実行委員会



特設サイト

PROGRAM

ステージ・ディスカッション

午前の部 11時~ ロボットとAMが製造業の変革を担う (仮称)

午後の部 14時~ 今から始める隣のロボット学! (仮称)

MODERATOR
 フューチャリスト
 ロボットデザイナー
 otuA Inc. 代表
 デジタルハリウッド大学 教授
 HuRoC 代表
星野 裕之 氏

PANELIST
 株式会社シグマックス
 常務執行役員
 デジタル製造担当
 クライアント担当
桐原 慎也 氏



AND MORE PANELISTS

SHOWCASE



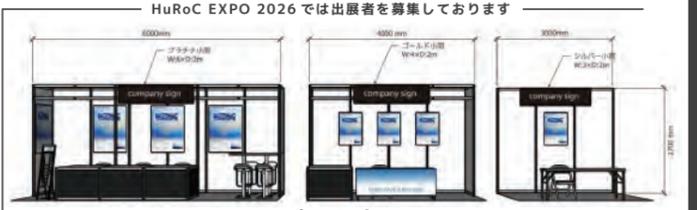
出展者 : AM・ロボット企業・大学・高専・研究機関・自治体・連合会・組合 (予定)
 対象分野 : 大展示ホール (1階)
 AM 関連 (3Dプリンタ、加工、スキャン、関連団体)
 モビリティ、産業用アーム、医療支援ロボット、遠隔操作ロボット、
 人型ロボット、AI×ロボティクス制御、災害対応ロボット
 支援可能な大田区の製造業 (主に精密加工・筐体製作)
 Sim-to-Real・仮想環境・AI学習・制御システム企業
 講演 : 大展示ホール メインステージ (1階)
 基調講演 (AM工学・ロボット工学の専門家)
 特別講演 (AM・ロボットの社会実装・規格化機関の専門家)

MEMBER・PARTNER

otua
 Design & Technology Studio
 オチュア ㈱

SIGMAXYZ
 ㈱シグマックス

AMX
 AMX ㈱



くわしくは事務局までお問い合わせください

※告知なく予定が変更になる場合がございます



HuRoC (Human-Robot Commons)
 将来ヒューマノイドロボットが活躍する
 幅広い分野を想定した共創プラットフォーム

HuRoC 実行委員会 ※現在は準備会
 代表 : デジタルハリウッド大学 / オチュア株式会社 (代表 : 星野裕之)
 理事 : 株式会社シグマックス AMX 株式会社
 事務局 : info@huroc.org

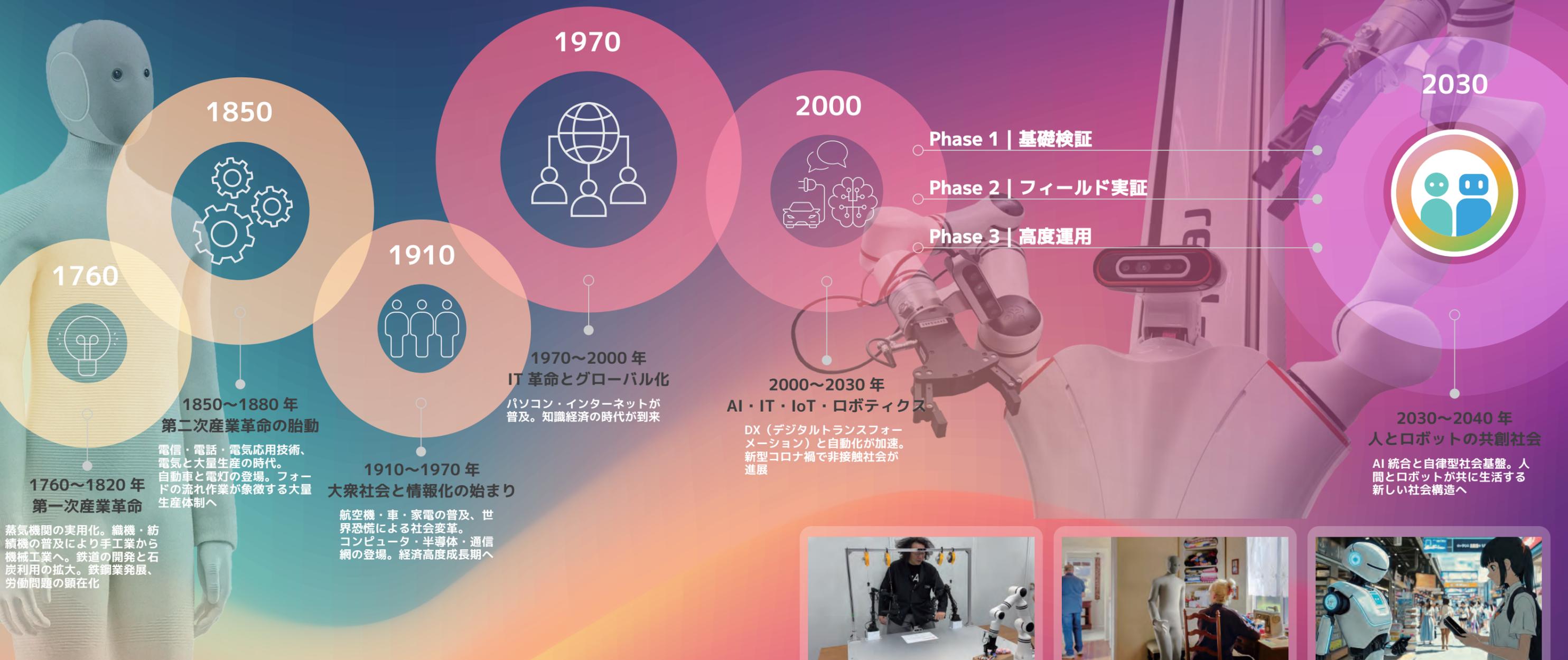


【生活・衣食住系】 服飾・縫製業 靴・履物産業
 住宅・建材業 インテリア業
 石鹸・洗剤・衛生資材業
 食品サービス業 【製造・加工・素材系】 精密加工
 工業 繊維・高機能素材 ゴム・樹脂成形業 3Dプリンティ
 百貨店・商店街 物流・配送業 観光・宿泊業 【公共・医療・美
 術・文化・クリエイティブ分野】 映像・CM制作業
 医療・介護業 保育・教育業 公共施設・行政
 デザイン・アパレル・舞台衣装業 ゲーム・エンタメ産業
 【日用品系】 洗剤・クリーナー業
 手袋・ブラシ・ワイパー製造 工業用潤滑剤・保守材 and
 【商業・流通・店舗支援系】 小売・



HuRoC (Human-Robot Commons)
 将来ヒューマノイドロボットが活躍する
 幅広い分野を想定した共創プラットフォーム

HuRoC HISTORY BOARD (1760 – 2040)



1760
第一次産業革命
 1760～1820年
 蒸気機関の実用化。織機・紡績機の普及により手工業から機械工業へ。鉄道の開発と石炭利用の拡大。鉄鋼業発展、労働問題の顕在化

1850
第二次産業革命の胎動
 1850～1880年
 電信・電話・電気応用技術、電気と大量生産の時代。自動車と電灯の登場。フォードの流れ作業が象徴する大量生産体制へ

1910
大衆社会と情報化の始まり
 1910～1970年
 航空機・車・家電の普及、世界恐慌による社会変革。コンピュータ・半導体・通信網の登場。経済高度成長期へ

1970
IT革命とグローバル化
 1970～2000年
 パソコン・インターネットが普及。知識経済の時代が到来

2000
AI・IT・IoT・ロボティクス
 2000～2030年
 DX（デジタルトランスフォーメーション）と自動化が加速。新型コロナ禍で非接触社会が進展

2030
人とロボットの共創社会
 2030～2040年
 AI統合と自律型社会基盤。人間とロボットが共に生活する新しい社会構造へ



Phase 1 | 基礎検証
 安全性と基本性能の確認
 歩行・姿勢制御の安定性
 受付・対話などの基本動作調整
 顔認証・音声対話の初期チューニング

HuRoCでは、工業、商業問わず様々な環境のロボット導入のコンサルティング対応をいたします。様々なロボット開発、省人化装置の開発などの知見を活用したご提案をいたします。



Phase 2 | フィールド実証
 地域・商業施設・学校での実装テスト
 案内・誘導、イベント対応
 商店街・公共空間での住民参加型実証
 教育機関での出張授業、子ども向け体験

HuRoCでは、ものづくりタウン東京都大田区をフィールドに開発されるロボットの使用に沿った環境を提供いたします。またHuRoCが保有するロボットの使用、比較サービスも行っております。



Phase 3 | 高度運用
 AI連携による本格的な社会実装へ
 データを活用した動作最適化
 施設・企業との連携による定期運用
 複数台ロボットによるエリア運動実験
 見守り・巡回・PRなど応用サービスの展開

HuRoCでは、AI、Sim-to-Realを積極的に活用していきます。また実際に収集及び蓄積した実証データの検証を通じてサービス展開に繋げてまいります。



HuRoC (Human-Robot Commons)
 将来ヒューマノイドロボットが活躍する幅広い分野を想定した共創プラットフォーム

- 文化・娯楽 (Culture & Entertainment)**
 遊びや芸術を通じて、人とロボットの関わりを身近に楽しみ、社会に意味や物語を与える領域
- 社会・生活 (Society&Life)**
 教育・医療・介護・家庭や都市など、日常とこうきょうが交わる場でロボットの新しい役割を探る領域
- 産業・労働 (Industry&Work)**
 生産やサービス、働き方の変革を通じて持続可能な経済活動と人とロボットの協働を実験する領域



HuRoC 実行委員会
 代表：デジタルハリウッド大学 / オチュア株式会社 (代表：星野裕之)
 理事：株式会社シグマックス AMX 株式会社
 事務局：info@huroc.org

これらのロボットとの未来を「みんなで考え、使い、育てる存在」として捉えること。それがHuRoCの目指す未来の公共(Commons)です。

人とロボットが自然に共存できる未来に向けて、大田区をフィールドにした段階的な社会実装を進め、ロボットの活躍領域を生活・産業・教育へ広げていきます。